いまかね教育かわら版
こんにちは教育委員会です ふたたび

No.２２０
２０２５（令和７）年６月２日発行
今金町教育委員会の会
文責：教育長　中山秀悦

教育委員リレーエッセイ

『　久しぶりの読書　』



今金町教育委員　　永　井　　章



先日、久しぶりに本を読むことが出来ました。
（新聞等の活字はけっこう読んでいるつもりだったのですが・・・）
最近はなかなか本を読む時間を作れず本にふれることが出来ませんでした。

ずっしりとした本を手に取って、ページを 1 枚 1 枚めくって読んでいくと、今は半分くらい読んだかな？とか、あともう少しで読み終わるぞ～とか、本と対話しながら読み進めているような感覚になっていました。そして、じっくりと落ち着いて本を読んでいるときは、かなりリラックス出来ていて癒しの時間になってくれました。
（今までは ON と OFF の時間をうまく作っていたように思うのですが、ただ作っていただけかもしれませんね・・・）
OFF の時間＝ただ単に身体を休めるだけではなくて、心と身体をその人なりにちょうどいい感覚で休めていくことが OFF の時間になるのだとあらためて思いました。

今回の読書が、自分にとってかなりちょうどいい時間になり、次の仕事へのちょうどいい栄養剤になりました。月に 1 日は読書の時間を作ってちょうどいい OFF の時間を楽しみたいです。
みなさんも読書の時間を作って心も身体も健康になるように、ちょうどいい OFF の時間を楽しんでみましょう！

流行と慣れと

気づいたら、家に帰って夕刊を読む習慣を忘れていました。
ちょっと前までは、仕事から帰って郵便受けに入っている夕刊を抱えながら家に入るのが自分のルーティーンだったのに･･･。離島に赴任したときは、フェリーで運ばれてくる関係で、前日の夕刊とその日の朝刊を帰宅後に。そこは義理堅く、我慢をしながら夕刊を見てから朝刊を、と。今、気づいたら夕刊があったことを忘れている自分がいて･･･。

今となっては大昔の感覚になってしまった。しかも、今の現実が当然なのに。親世代が呟いた「お茶にお金出すの！？」という言葉。それが「水に！？」となって。今は全く不思議でなく、それどころか「当たり前でしょ」という認識があるのに。普通にどこにでもある物という感覚だった自分の鈍さ、慣れに恥じ入るばかり。
『ごみの有料化』のときも、なかには、ごみにお金を出すのか、と言っていた人が少なからずいたことを思い出します。きっと、捨てるのにという感覚だったのでしょう。処理にまで考えが及んでいなかったのかも。知識と情報の不足が文化度の低さとして表れてしまうとしたら、そういう誤った不易は直していかないと。

なんと言っても今一番の話題。どうぞ、生産者の方も消費者も納得して、生きていく気力が充実していく適正なお米の値段に、みんなが幸せになりますように。